

# 山椒は小粒でも...

## 海女さんとさわらを 名刺がわりに



「この前ねー海女小屋へ行つてきたんだ」

男女4人組らしき隣の席から聞くとはなしに聞こえてきました。こちらは海女という言葉に反応し、気が気ではありません。私たち鳥羽の3人の箸先は凍り付いたまま「今、海女小屋って言ったよな？」としばらく耳がダンボになりました。「えーどうだった、どうだったの？」

「リアル海女さんが目の前で、アワビや伊勢海老を炉端で焼いてくれるの。漁のお話なんかもしながら」  
「どんな話をするんだよ」  
「今はみんな、黒いウェットスーツを着てるけど、昔は白い磯着で潜ったんだって...」  
「ウァー海女小屋、私も行ってみたいー」

居酒屋2階の座敷。心底驚きました。というのも、場所は東京の神楽坂です。嬉しくてドキドキしました。振り向いて「あの一私たち、その海女小

屋のある鳥羽のものです」とか「私、その市長です」と話しかけそつになりましたが、必死の思いでこらえました。いつもの私なら普通に話に入つていつて鳥羽のPRをするところですが、このあとしばらくお互い食事が続くとなると、もし気まずい空気になったら迷惑かな、という遠慮が働いてしまいました。今思い返しても残念でしたが、海女さんの知名度の高さに改めて気付けられると同時に誇りに思いました。

このお店では、もうひとつ嬉しいことがあります。お刺身の5種盛りを注文したところ、そのうちのひとつが脂のよくなったさわらでした。店主さんにごこのさわらか尋ねると、三重県産とのこと。答志島トロさわらならメニューにその旨の表示をするだろうから、トロさわら並みに脂ののった普通の鳥羽産さわらだったのだでしょう。お店に名刺を置いて、鳥羽とさわらの宣伝をしてくるべきだった

とこちらも反省です。

そのさわらですが、今年も「答志島トロさわら宣言」が行われ、全量計測により基準をクリアした個体が「答志島トロさわら」として出荷されています。秋から冬にかけてが旬なので、みなさんもぜひ食べてみてください。トロさわらについて、くわしくは私がデザインしたクラフト絵本「鳥羽ざかなを食べよう！食おう！食らおう！〜さわら編〜」をご覧ください。



市ホームページ  
クラフト絵本  
コーナー



5種盛り1,800円



離島の路地を思わせるような  
小道の奥に店はありました



Vol.208

市民課人権・市民交流係  
☎ 1126

### 『オレンジリボン運動』

「オレンジリボン運動」は、オレンジリボンを身に着けることで、子ども虐待防止の活動に参加している意思を示し、子ども虐待のない社会の実現を目指す市民運動です。この運動は、2004年に起きた子どもが虐待によって命を奪われる事件がきっかけとなり始まりました。

2000年に児童虐待の防止などに関する法律が施行され、児童虐待の定義が初めて定められました。また、養育者が「しつけ」と反論する行為に対して、児童相談所が虐待として対応できるようにもなりました。

その後、児童虐待の定義の見直しや立入調査の強化を明記するなど、二度の法改正が行われました。

児童相談所の虐待相談件数は30年連続で増加傾向にあり、全国の児童相談所が2020年

度に対応した児童虐待に関する相談件数は、20万件を超え、過去最多となっています。

11月は児童虐待防止推進月間です。近年の少子化により子ども同士のふれあいの減少などから、自主性や社会性が育ちににくいといった影響が懸念されています。顕在化していないこれらの問題に対して、育児に悩む保護者と同じ目線で接し、会話を傾け共感することで、抱えている悩みにいち早く気付付けるかもしれません。

コロナ禍で外出の機会や他者と接する場面が減少し、誰にも相談できない、頼れないといった閉鎖的な環境が、虐待のきっかけになる可能性があります。

オレンジリボンの色は、子どもたちの明るい未来を表しています。子どもの権利・命未来を守るため、地域が一体となって子どもたちをあたたく包み込んでいきたいと思います。



子ども虐待防止  
オレンジリボン運動

